

平和とは。3つの主題を語る。

PRIMEの考える平和問題には3つの軸があります。
戦争や核だけではない、様々な“カタチ”的平和問題について語ってもらいました。

OUR
THESES 01

グローバル化

グローバル化と 多文化共生

客員所員 武者小路公秀



PROFILE

元国際平和研究所所長。
明治学院大学等の教授を
経て、現在、大阪経済法
科大学アジア太平洋研究
センター所長。

グローバル化とともに、国際移住が盛んになる中で、日本のように日本語を話し、日本文化を共有する日本国民のように均質であることを誇りにして、外国人が日本人と混ざることを嫌う排外主義、西欧のように西欧文明を完全に受け入れない「野蛮人」を排除する排外主義、米国の反テロ戦争のように特定の宗教を敵視する排外主義が流行しています。それを克服して、違った民族、違った文化の人々が違うから付き合う価値があると思う世界をつくる動きがでています。それが「多文化共生と多民族共生」という考え方です。

グローバル化は、国境を越えた人々の交流を可能にしましたが、グローバル化の拡大と共に、南北間における地球規模の経済格差だけでなく、反テロ戦争などの排外主義も台頭しています。私たちはどんな世界に住みたいのか考えてていきます。



PROFILE
「環境・持続社会」
研究センター理事、
アジア太平洋資料セ
ンター理事、女子栄
養大学非常勤講師



人びとのための政治と経済を 取り戻すために

研究員 佐久間智子

経済と政治のグローバル化は、民間の企業・投資家の利益追求を何よりも優先することで、人びとの生存と生活の質に関する基本的な権利を奪い、農地や自然環境を荒廃させる経済と政治の在り方を、地球全体に行きわたらせていることが明らかになつてきました。二一世紀になつた今も、世界には十分な食料を得られない人びとが八億人、安全な飲み水が得られない人びとが十億人も存在します。しかし、国際分業を強制された農業は、ますます世界の富裕層のための食料や嗜好品、バイオ燃料の原料などの生産に集中するようになつており、そのために水や土壤などの有限資源が浪費されています。

マネー経済が肥大化するなか、労働条件は切り下されられ、各國間、各国内で格差が拡大し、開発援助は必要としている人びとに行きわたらず、社会保障制度の切り崩しも進んでいます。私たちは、すべての人の基本的ニーズが満たされ、基本的人権が尊重され、自然と共生できる世界に至る道を探求し、実践していく必要があります。